

職員による自己評価

A業務改善

- ・業務の振り返りや改善の検討を行う時間の確保が課題。
- ・研修機会の確保は徐々に改善されてきている。

B適切な支援の提供

- ・個々に応じた支援について考えられ、計画に反映されている。
- ・今までプログラムのバリエーションに課題があったが、新たなものを取り入れるようになった。

C関係機関との連携

- ・保育所等との連携は巡回訪問などを通して充実してきた。医療機関との連携も行っているが、書面が主である。
- ・就学前後の学校との連携が継続した課題。

D保護者への説明責任等

- ・利用前から保護者への説明については丁寧に行えている。
- ・「クラスだより」などによる発信はあるが、動画やSNSなどの手段による発信も課題。

E非常時等の対応

- ・危機管理は整備されている。避難訓練も少しずつ実践的に改善されてきた。

保護者による評価

A適切な支援の提供

- ・子どもに合わせて支援をしてもらえている。
- ・プログラムが固定化されているように感じることもある。

B保護者への説明等

- ・丁寧にわかりやすく説明されている。
- ・職員と直接相談できる機会があり安心。
- ・保護者同士で交流する機会や連携が少ない。
- ・通園で過ごしている様子などの写真などがほしい。
- ・個人情報適切に扱われている。

C非常時等の対応

- ・自由に入出りができるため防犯面での不安がある。
- ・避難訓練は定期的実施されている。
- ・実践的な具体的な避難方法が理解しづらい。

D満足度

- ・多くの方はセンターの支援には満足されている。
- ・専門職の介入や相談の機会が欲しい。
- ・延長支援があるとよい。

通園課内での分析

【共通点】

- ・お子さん個々に対する支援について考えられており、丁寧な説明がされている。
- ・お便りなどの情報伝達があるが、写真や動画などの手段による発信が課題。
- ・同じようなプログラムでバリエーションや展開に課題があるという共通の意見があった。
- ・保護者同士の交流や連携を行う機会が少ない。

【相違点】

- ・個々に配慮したプログラムが検討されているが、集団プログラムの中で伝えることができていない。
- ・新たなプログラムへの取り組みもあったが、例年同じようなパターンの繰り返しも多い。
- ・避難訓練での説明がされているが、実践的な訓練が少ない。

【その他】

- ・専門職（PT 言語など）の介入や相談の機会の提供を求める声が多い。

分析・検討してみて…

通園課の強み

- ・お子さんに応じた具体的な支援について考え、保護者に丁寧に説明することができている。
- ・職員の研修の機会の確保や新たなプログラムの検討を行うなど、療育の質の向上に努めることができている。
- ・リスク管理に対する意識は高く、各種研修の実施、事故・ケガ・ヒヤリハットなどの報告と共有、検証は定期的に行われている。
- ・巡回支援、引継ぎなどの実施で関係機関との連携が強化されてきた。

通園課の改善点

- ・継続して通園を利用するお子さんには、プログラムのバリエーションの広がりが必要。
- ・避難訓練では多くの利用者の方に実際の避難経路を用いた実践的な訓練も必要。
- ・保護者同士の交流の確保などは引き続き課題が残っている。
- ・専門職と通園との連携の中で、保護者の方々に向けた相談の機会など検討することが必要。

通園課の改善への取り組み

- ・継続利用するお子さんへのプログラムについて検討を行う。家庭般化プログラムの検証を行い、さらに改善を行う。
- ・親子通園も非常階段を用いた避難訓練の実施を検討する。
- ・親子通園では保護者懇談会の持ち方などについて検討を行う。単独通園では父母の会への支援方法や、保護者プログラムにおける交流の機会などの検討を行う。
- ・専門職による保護者勉強会などで、保護者との交流の機会を検討する。

～自己評価を行っての通園課としての感想など～

今回も多くの方に、アンケートにご協力いただき誠にありがとうございました。

今年度も利用者の方々からは高い評価をいただき大変感謝しております。来年度は併行通園クラスの増設や、新たな事業所での受け入れの拡充ができるようになり一歩前進しました。今後はさらに内容を充実させていけるよう、皆様から様々なご意見をお聞かせいただき、より満足していただけるよう一層の努力と改善を図ってまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

(事業所名)

横浜市東部地域療育センター 通園課

児童発達支援センター・医療型児童発達支援センター

担当者 園長 中尾 健太郎